



パイロット通信 9号

平成 29 年 12 月 8 日 (金)

①第 13 回「学びの変革」パイロット校事業に係る校内授業研究会について

11 月 20 日 (月) に第 4 回公開授業研究会 兼 第 13 回校内授業研究会を実施しました。2 年生の社会科の授業で「11 月の北海道へ修学旅行に行くとするどどのような服装でいくとよい？」という教師の問いかけから授業がスタートしました。各班で各都市間の移動時間を調べ、北海道の広さを実感した後、各都市の 11 月の気温に注目し、北に行けばいくほど気温が低いと思っていたのに、旭川市が一番低いという事実を知った生徒は「なぜ、このような気温の違いが生じるのだろうか？」と疑問を持ち、内陸部の地形や近くを流れる海流に注目し、その疑問を解決していきました。授業後の生徒アンケートでは 4 項目すべて肯定的評価となり、生徒の「主体的な学び」がみえる授業となりました。日本体育大学 角屋重樹教授からは「自分が知っていることを最大限に使う授業で、緻密な授業づくりをされていることがみえる授業でした」とご助言をいただきました。「生徒の活動に主体性があり、知的充実感のある授業」の参考となる授業になりました。



②第 14 回「学びの変革」パイロット校事業に係る校内授業研究会について

11 月 30 日 (木) に第 14 回校内授業研究会を実施しました。特別支援学級の国語の授業で「4 コマ漫画の物語を考え、文章を作ってみよう」という授業を行いました。4 枚のイラストからわかる事実を各自で読み取り文にしたあと、4 コマ漫画の順番を考え、そう考えた理由を交流しました。生徒は、イラストからわかる事実だけではなく、イラストの主人公の気持ちに寄り添った物語を考えるなど、いろいろな意見を出し合いました。授業後での研究協議では、「個に応じた指導」をキーワードに協議を深めました。学習材にこだわり授業を組み立てていくことや、生徒が到達してほしい姿をイメージし、授業を構成することなど、色々な切り口で「個に応じた指導」を考えました。また、講師の府中市立府中学園の和田衣里先生からは『「主体的な学び」を促すユニバーサルデザインの授業モデル』についてご助言をいただき、研修を深めることができました。

